

たまごのあかちゃん

昭和63年度卒業（平成元年）文学部 史学科 東洋史専攻：挾間町立図書館

菅 宣子

みなさんも良くご存知の「たまごのあかちゃん」(福音館書店)という絵本があります。これは、「ブックスタート」にもお薦めの本として、馴染みの深い絵本ですが、今の私自身を表しているような気がしてなりません。

私は現在、大分県大分郡挾間町にある『挾間町立図書館』に勤務しています。この図書館は、まだ新しくちょうど三年目を迎えるよう



としています。私は大学時代に「本が好き」という理由から、司書の資格を取得しました。そして、今その資格を生かして働ける自分は、とても幸せものだと感じています。

しかし、現在のようになるまでには、様々なことがありました。(本当に大変だったのです。) 図書館が出来るまでは、事務という地味な、誰でも出来る？(関係者の方すみません) 仕事でした。図書館という話が町の中で起こるまでは…。「挾間町にも図書室でなく図書館がほしい！」という多くの住民の方々の要求で、建設された図書館。その図書館で働ける誇りと幸せ。そして、もちろん「頑張らなくては」という気合と、職場の楽しい司書の皆さん方。(本当に館長をはじめ先輩司書の方々、いつも暖かいご指導をありがとうございます。) つくづく私は幸せものだと感じます。

図書館という場所は、「よりよい情報の発信基地」であり、また心の滋養の場でもあります。そして来館されるお客様は、「何か」を求めて来られます。私たちは、「本」という、とても素敵な媒体を通じて、お客様と向き合います。ときには、様々な方の「何か」を一緒に探します。そして、お客様の「人生の分岐点」にも立ち会います。(これは凄いことだと思うのです) そのような毎日を過ごしていると、自分自身の未熟さや、深いところでの自分への気づきが生まれます。

文の冒頭で記載しました、絵本「たまごのあかちゃん」ですが、これが何ゆえ私なのかというと、まだまだ私が、「たまごから孵ったばかりの司書の赤ちゃん」だからです。若干三歳の司書の赤ちゃんですが、「大きくなるぞ」と、意気込みだけは十二分に持っています。

お陰さまで、我が愛する『挾間町立図書館』も、順調に毎年、貸出冊数等の成績を上昇更新しています。近年の財政難で、資料費を守るのに、日夜、図書館職員全員で、頑張っています。嬉しいことに司書という職業柄なのか、助け合うということでは、当館だけに留まらず県立図書館さん等にも、バックアップを受けながら、のびのびと活動しております。

今仕事をしていて、何が楽しいと聞かれたら、子どもたちの笑顔に触れる時です。可能性の一杯詰まった、輝く笑顔は、「私も頑張るぞ」という力をもらいます。とくに「ブックスタート」で出会う多くの赤ちゃんは、素晴らしい笑顔のパワーを与えてくれます。

文化を創るのは、道路やハコモノを造るのとは、わけが違います。たったヒトコト「造る」ではなく「創る」という漢字からも一目瞭然ですが…。何事も、一年で終われば単なる『流行』にしかならず、私たちの仕事は、十年単位のものだとつくづく感じます。息の長いものにしていかねばなりません。そのためには、多くの関係機関や「人」との連携プレーが必要です。「人間嫌い」には勤まらない仕事と痛感します。

これからも、地道にコツコツとそして、ある時は派手に「挟間町立図書館ここにあり」とあらゆる場所でのピーアールが必要なのだと感じます。

最後になりますが、現場でご活躍されている多くの司書のみなさん、日々の激務ご苦労様でございます。誇りと希望をもって、これからも邁進されますことをお祈りいたします。